



第51回日本呼吸器学会学術講演会
イブニングシンポジウム8

Towards **good days** for COPD patients

座長

三嶋 理晃 先生
京都大学大学院医学研究科
呼吸器内科学 教授

橋本 修 先生
日本大学医学部
内科学系呼吸器内科学分野 教授

講演1

COPD患者の達成目標と患者マネジメント
—地域連携を介して—
高橋 識至 先生

NTT東日本東北病院呼吸器内科部長

講演2

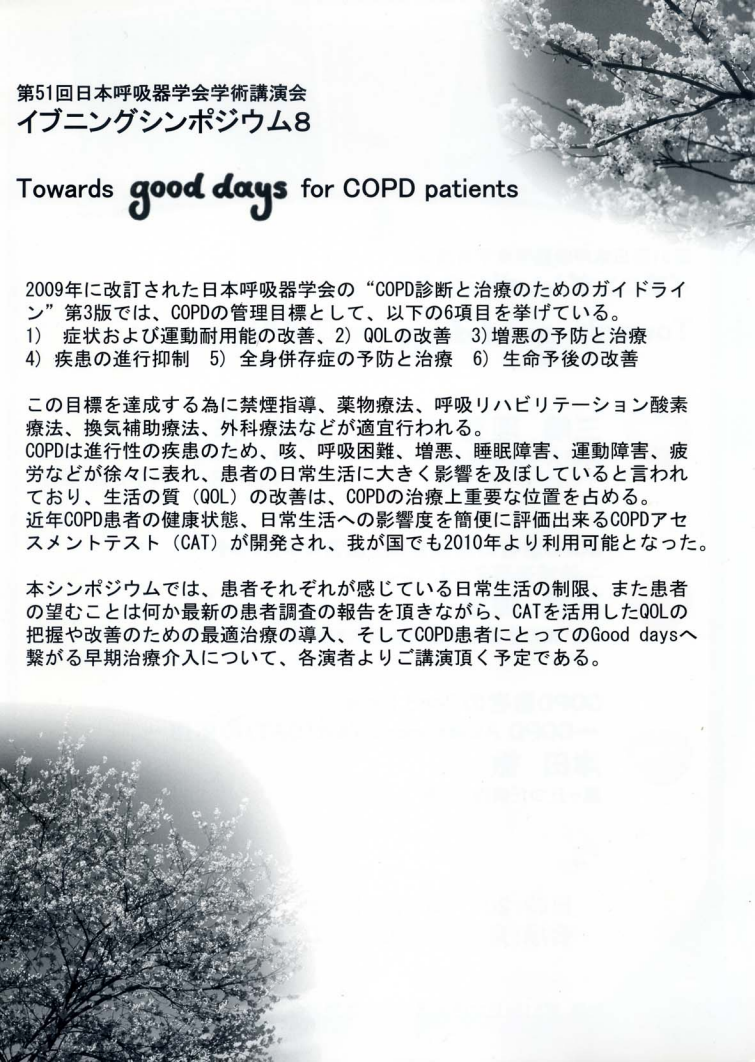
COPD患者のGood Days
—COPD Assessment Test (CAT)の応用—

津田 徹 先生
霧ヶ丘つだ病院 院長

日時: 2011年4月23日(土) 17:00~18:30
会場: 東京国際フォーラム 第1会場(ホールB7(1))

共催: 第51回日本呼吸器学会学術講演会
グラクソ・スミスクライン株式会社





第51回日本呼吸器学会学術講演会
イブニングシンポジウム8

Towards **good days** for COPD patients

2009年に改訂された日本呼吸器学会の“COPD診断と治療のためのガイドライン”第3版では、COPDの管理目標として、以下の6項目を挙げている。

- 1) 症状および運動耐用能の改善、
- 2) QOLの改善
- 3) 増悪の予防と治療
- 4) 疾患の進行抑制
- 5) 全身併存症の予防と治療
- 6) 生命予後の改善

この目標を達成する為に禁煙指導、薬物療法、呼吸リハビリテーション酸素療法、換気補助療法、外科療法などが適宜行われる。

COPDは進行性の疾患のため、咳、呼吸困難、増悪、睡眠障害、運動障害、疲労などが徐々に表れ、患者の日常生活に大きく影響を及ぼしていると言われており、生活の質（QOL）の改善は、COPDの治療上重要な位置を占める。

近年COPD患者の健康状態、日常生活への影響度を簡便に評価出来るCOPDアセスメントテスト（CAT）が開発され、我が国でも2010年より利用可能となった。

本シンポジウムでは、患者それぞれが感じている日常生活の制限、また患者の望むことは何か最新の患者調査の報告を頂きながら、CATを活用したQOLの把握や改善のための最適治療の導入、そしてCOPD患者にとってのGood daysへ繋がる早期治療介入について、各演者よりご講演頂く予定である。